

カーボンニュートラルに関わる 分科会の取組み

(食料科学委員会 水産学分科会)

東京大学大学院
農学生命科学研究科
八木信行

提言「わが国における持続可能な水産業のあり方 -生態系アプローチに基づく水産資源管理-」(2017年8月)

地球温暖化が水産業へ及ぼす影響に関する既存文献の内容についても記述し、どれだけの生物が適用していけるかの予測は難しいと指摘

- 酸性化により翼足類(ミジンウキマイマイ)の炭酸カルシウムの殻が溶解し始めている点
- 2000年代以降、初秋に北海道の日本海へ回帰するわが国のサケは対馬暖流の高温化により回帰量が減少傾向を示すようになってきた点
- ノリ養殖での疾病発生の増加や春季の珪藻ブルームとの競合による色落ち、マガキ宮城系群では夏季に大量斃死が多発している点
- 日本の沿岸において磯焼けが頻発している点、など

水産学分科会が主催する公開シンポジウム等

- 2016年11月に主催した公開シンポジウム「成熟社会における持続可能な水産業のあり方とその中長期戦略」において、「日本周辺海域の海洋生態系に及ぼす温暖化の影響」(木村伸吾・東京大学大学院新領域創成科学研究科)との発表を実施
- 2018年11月に主催した公開シンポジウム「2050年の水産資源を日本の食卓から考える」でも、気候変動や海洋酸性化など地球規模の環境変化が進む一方、世界的に水産物需要が高まっている点を念頭に議論。
- 委員会における最近の議論では、農林水産省が2021年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」についても意見交換

水産学分科会 今後の予定

- 分科会ではカーボンニュートラルや気候変動は引き続き重要課題。農林水産業は被害者と同時に加害者にもなる。新技術を活用したイノベーションなどの議論も重視。
- 2021年11月12日には公開シンポジウム「フードシステムと養殖の未来」を予定。「IPCCによればフードシステムからの温室効果ガス排出量は全排出量の21～37%を占めるに至っている。さらに、世界人口の約1割が飢餓で苦しむ一方で、世界の食料生産の約3分の1が廃棄されている状況も加わり、これからのフードシステムのあり方、その持続可能性が問われている」との認識下で議論を行う予定。

分科会の枠を超えた 横断的な課題の候補(試案)

- フード・マイルなどについて(たとえば農学委員会 農業経済学分科会と連携するなど)
- 消費者の環境への配慮意識が環境保全行動につながるかの解明(たとえば心理学・教育学委員会 実験社会科学分科会と連携するなど)
- 洋上風力発電の設置における漁業との調整問題について(工学系の分科会との連携など)